教 授　**小林　真理**　KOBAYASHI, Mari

1. 略歴

1987 年 3 月　早稲田大学教育学部社会科社会科学専修卒業
1987 年 4 月　早稲田大学大学院政治学研究科修士課程政治学専攻入学
1990 年 3 月　早稲田大学大学院政治学研究科修士課程政治学専攻修了（政治学）
1990 年 4 月　早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程政治学専攻入学
1993 年 5 月　早稲田大学人間科学部助手（～1996 年 3 月）
1996 年 3 月　早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程政治学専攻単位取得満期退学
1998 年 4 月　昭和音楽大学音楽学部助手
2000 年 4 月　静岡文化芸術大学文化政策学部講師
2001 年 1 月　博士（人間科学）
2004 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科准教授（職名変更）
2016 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

文化資源学、文化経営学、文化政策学

b 研究課題

文化を支える諸制度、それと反対のベクトルである文化の発展を阻害する制度について関心をもってきた。研究の中心を法制度においてきたが、最近は国や自治体の文化政策の動向に対応して、文化にとってよりよい政策の企画、立案、執行のあり方について考えている。とくに行政改革が現実に行われ、市町村合併の推進及び 2003 年に地方自治法改定で施行された指定管理者制度が導入される状況の中で、公立文化施設（美術館、文化ホール等）の望ましい運営方法とそれを管理する文化政策のあり方を研究の対象としてきた。

近年では、文化政策の制度化によって計画化が進み、それらの評価のあり方が課題となってきている。文化政策に関する独自の評価というのが可能なのかという点が目下の研究課題と考えている。

c 概要と自己評価

これまでに自治体文化政策の現場において、条例制定、計画策定、そして事業展開の基盤づくりに携わってきたが、それらを検証し、記述する作業に入っている。その参照枠として、イギリスにおける文化政策の展開の状況を振り返るロバート・ヒューイソンの"Cultural Capital -The Rise and Fall of Creative Britain"の翻訳を行った。日本の文化政策を振り返ったときに、イギリスからの影響は多大であり、あたかも順調に進んでいるように紹介されているものが、実態としてどのような課題をもっていたかということを知る上で大変参考になる書物だった。日本の文化政策が拡大を続けていく中で、それをどのように行っていくか、またどのような制度を整えていくかを改めて考える上で重要な示唆を与えると考える。さらに、文化芸術、アート・プロジェクト、フェスティバル、創造都市、おもてなし、クール・ジャパン、観光立国、文化外交、知的財産立国、オリンピックの文化プログラム等々、直接的に文化という名称を冠していなくとも文化的事象に関係する政策、施策、そして事業が様々なレベルで展開されるようになっている。これらの問題を研究対象として考察していく上での基礎的な知識を提供するという意味で、東京大学出版会から『文化政策の現在』シリーズ 3 巻を刊行できた。このような潮流を捉えつつ、もう一度個別の具体的な文化事業、文化施設の持続可能性について考察を深めていきたいと考えている。

d 主要業績

(1) 著書

編著、小林真理他、『文化政策の現在３巻　文化政策の展望』、2018.4

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、お茶の水女子大学、「博物館経営論」、2017.4～
非常勤講師、早稲田大学、「文化政策」、「法学」
非常勤講師、東京芸術大学、「文化政策」

⑵　行政

武蔵野市第６期長期計画策定委員（委員長）、2017～2018
武蔵野市文化施設のあり方検討委員会委員（委員長）、2019～
大田区文化芸術振興計画策定委員（委員長）、2018）
小金井市第二次芸術文化振興計画策定委員会委員、2019～
小金井市民交流センター運営協議会委員（委員長）、2012～
奈良県国際芸術村検討委員会委員
奈良県文化財保護体系推進会議委員
高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会委員
三重県文化政策評価推進会議委員
文化審議会文化政策部会臨時委員、2018～
文化審議会博物館部会委員、2019～
文化施設を中心とした文化観光のあり方に関する検討会議委員、2019～
日本ユネスコ国内委員会委員